ここに生きる

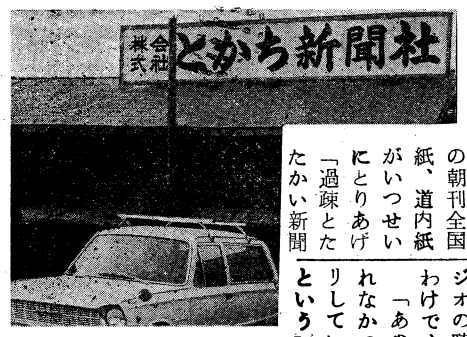
わがタウンペーパー

―NHK全国放送から―

NHKの全国放送のラジオ番組「ここに生きる」に松山明の生活ぶりが「わがタウンペーパー」と題して電波に乗りました。

放送当日（五月十三日）の朝刊全国紙、道内紙がいっせいにとりあげ「過疎とたたかい新聞発行」とか「小さな新聞作りに励む足寄の松山さん」といった見出しで紹介されていたように、とにもかくにも「足寄町」と「松山明」のことが全国のNHKラジオの聴取者の耳に入ったわけです。

「あの放送はよくききとれなかった」「当日ウッカリしていてきかなかった」という読者からの要望がありましたので、当日の放送録音テープからうつしてみましたが、つぎのように、『……『や（……）以外のところはすべてアナウンサーの声です。



ひとりで新聞づくりー

ここに生きる！わがタウンペーパー　（列車の音）

四月末のある日、私は国鉄池北線を池田から足寄に向っていました。池北線は北海道の中央よりも東より池田から北見までの延長一四〇キロ、南北に走るローカル線で（列車の音）間もなく五月というこの季節に、車窓から見える枯れ野の風景は、みぞれに打たれていました。

『アショロー、アショロー、アショロー』（駅のホーム）足が寄ると書いて足寄、札幌を出発してから六時間たっていました。

駅前通りを三〇〇㍍ほどゆくと足寄町役場、そのとなりに古ぼけたバラック風の建てもの、とかち新聞、屋根の上の白い看板だけがひどく立派で、建てものに不つり合いです。（新聞を印刷している音）

『こんにちはー』ガラスが一枚欠けた建てつけの悪い戸をあけると、居間のうす暗い土間で、黒ブチの老眼鏡にチョビヒゲの男がひとり、旧式の印刷機械にとりくんでいました。（組み版を締めている音）

『活字以外のこのバイが寸法どおりに入っていないと刷っているうちに版がバラバラになってしまうんです』ー松山明さん、五十八才、旬刊タブロイド版二頁とかち新聞社主、主筆、自分で活字もひろい印刷もする、新聞発行に必要な役割をすべてひとりで兼ねる新聞発行人です。『若干でもスキマができますとね、機械は人間よりも正直でね…』（ふたたび印刷の音）

翌日、新しい読者を開拓にゆくというので、車に同乗させてもらいました。長女絵里子さんは、いわばとかち新聞の運転手、広大なこの町では、車は必需品です。（自動車の音）

部落へ行く

足寄町は北海道の東部、阿寒国立公園と大雪国立公園にはさまれ面積一、四〇〇平方キロ、香川県一県の面積に迫る日本一広い町、総面積の八〇％以上が山林、原野ー畑作と酪農そして林業の町。

『こんにちは、お邪魔します』『なにかあるんですか』『新聞を読んでもらいたいと思って…』『ああそうですか、いつぶくしませんか』ーここはいわば新聞の空白地帯、広大な面積のなかに人口は一万五千足らず、この過疎の町にどの新聞も支局、通信部をおいていません。マスコミの手の及ばないところに松山さんの活躍の場があります。

『大体美里別としては出るものは出、残るものは残ったのですか』『イヤ来年でもう半分になります、四戸くらいになります、やはり農業は粗収入で八百万円くらいあげれなければ残れないです』（さらに奥地へ）『とかち新聞という小さな新聞ですが…』『ああこれですね』『読んで頂きたいと思ってお願いにあがつたのですが』『読ませてもらいます、どうぞ休んで…』

とかち新聞は発刊から十九年たちました。そのむかし新聞少年だつた松山さんは、自分の書いた文章が活字になるのが夢でした。かつての北海タイムスの通信員や朝日新聞の記者をしたこともあります。いくつかの職業を転々とした末、昭和二十二年、生れ故郷の北海道栗山町で念願の新聞をはじめました。ところが親戚の借金の保証人になつたことから家、屋敷を債権者にうばわれ、こんどは妻の故郷足寄でふたたび第一歩から出発することになつたのです、昭和二十九年のことです。ガリ版刷りの新聞は読者が一千を越すことになると印刷能力が追いつかなくなりました。昭和三十六年、彼の仕事を支援する有志が出資し合つて株式会社とかち新聞が誕生、中古ながらはじめて活版の印刷機械が入つたのです。

事件のウズに

そして間もなく松山さんにとつて忘れることのできない事件のウズのなかに飛び込むことになつたのです当時の町長が国道の用地として自分の土地をとられたさいに、補償を受けながらその立場を利用して町有地を替え地として手に入れてしまつたのです。

『その補償金を役場におこうが銀行に預けようが投げようが捨てようがもらつたことで、開発建設部から補償されたのに町有地を取るのは二重取りで横領ではないかと報道したら、ただちに議会をひらき、真相はどうかという議員の質問にたいして、そんなことはない、ウソである、ああいう記事はけしからん、町長は名誉毀損だとして訴え、それにともなう損害賠償請求の裁判となつたのです、そのあといくら議会でやつても正論は通らんで町長側の多数決がまかり通つてしまう、役場の発行する公報で町長の言い分を全部くわしく伝えるし「道新」も町長側のいうとおりに書くのでエラかつたです』

各地区をまわつて連日、真相発表会をしました。夜の帰り道に襲われないようにと、多くの支持者が守つてくれたということです。この事件は松山新聞の命運をかけたたたかいでもありました。

『長いものにはまかれろ反対するのは損だ、悪いとは知りながら地主であり町長であるから刃向えないということで、もう松山は足寄におれないぞーといわれたものです、町長の不正を発表する会のビラを張つて全町でやつたものです、だから足寄におれなくなるといわれたものですが、私はずうつといるんですが、その当時の町長はいないんです、そういうものに負けないで、貧乏を覚悟でやるところにやり甲斐があるんでないですか』

購読料の集金はいま長女絵里子さんの受け持ち、ときに妻の美代さんが手伝います、年間購読料一千五百円、これがとかち新聞の収入の大部分なのです。（このあと集金に歩く風景）

土地買い占めをめぐり

いまこの町にとつての大きな問題ーひとつ阿寒研究学園都市の誘致、ひとつ内陸部と北海道東海岸釧路を結ぶ白糠線の建設促進、池北線の合理化による駅の無人化絶対反対、そして土地買い占めをめぐるさまざまな問題ー四月末のある日、松山さんは足寄でただひとりの公認不動産業者を訪ねました。

『大誉地の共同牧野は例の日本企業観光が買うわけですか』『角栄建設になると思うんです』『カクエイ？』『田中角栄の角栄建設です、名前を出すかどうかですが…金はそこから出るようです』『社長は総理』『イヤそうじゃない、社長は身内で、大臣クラスがだいぶ顔をつらねている、角栄の名前では登記しないと思う』『列島改造論を地でいつているわけですね』『そうそう、代議士や大臣クラスが顔をつらねていても地価つり上げで問題になるから名前は出さない、政治はそういうものです、農外資本の無暴な買いつけですよ』『現地を見もしないですか』『大手の会社ですと反二万や三万だつたら見ませんよ』『もう農業振興も限度になつてしまうね』『なりますね』『残るのは町有林と国有林…』『そうです』

信念の新聞に

（足寄高校バスケットの練習中の音）長男千春君、足寄高校三年、北海道ベスト校をめざすバスケットチームのポイントゲッター。

『やつぱりおやじでなきやできないということですねだいたい地方でさ、こんな風にやることはチョッとできないんじやないですか、長いでしょう、ひとりでつくつて印刷してね、僕も小さいときからあの印刷の音をきいて育つたんです』

娘と妻がささやかなスナックを開業したこともあつて、男の子二人の食事のしたくは松山さんがすることになりました。（フライパンで肉を焼く音）『うまくてもまずくても喰べているところをみると口に入つているわけです』

『千春は新聞をやつていくか、社長は間違いないぞどうだ』『父さんは会長になつてかい』『はじめから社長だ、明人は専務かな、はじめからエラくなつてしまう』

『やつぱり信念があるからひとりでやつてできるので、私らにはすすめられてできる仕事ではないし、そんな器でないし、とかち新聞というより松山明新聞に近いので、一代でおわつていいんでないですか』ー娘は父の信念でやつている新聞だといいます。

その信念を父は、自身の新聞の体験のなかから築きあげてきました。『大衆にこちらが利用されているんだという、大げさですがそういう気持でなければ…そうすれば真相を取材し易いのですよ、しいたげられている人には…困つている人いじめられている人達の相談相手というか、頼られるというか、問題をもち込まれることにこちらはファイトを燃やし、それをやるのがひとつの生き甲斐ですね困つている人が助かると、新聞は小さいがなにかためになるのでないかと…」

いつのころからか、問題をかかえた人々が彼の家に相談にくるようになりました。ときには電源開発で土地を失う人々の代弁役になりました。住民訴訟、リコール、監査請求の先頭に立つなど、住民側の矢おもてに立つことがすくなくありません。『評論家的にね、評論しているだけでなく住民の一人として実行、実現を期さなければならないというときにはふみとどまつておれない責任があるわけで、そうあるべきだと主張した以上はその実現をはかるということになるのですこれが地域のローカル新聞の在り方だと思います、傍観するわけにはいかないのです、私は書いているだけであなた方やりなさいとはいかない、やりましようとなる、その点、報道と行動が一致できるところに小さな新聞の身軽さなせいでやれるということです』

最近、あまり家がひどいので、建て直すなら土地を提供しようという農民から申し入れがありましたが、いま建てる金はない、もし金ができたときにはお願いしますよー松山さんのことばです。

『とかち新聞の松山ですよ読んでもらおうと思つて送つていたんですがね』『あれお金かかんのかい』『一応去年の九月から送つていたんですが…』『頼まないのによこすのかい』『見て頂かないとわからないのでいらなかつたら郵便さんにことわつて下さいと、書いておいたんですが…』『知らないんですよ』『ことわつてこないので読んで頂けるものと思つていたんですどうですか、つまらない新聞ですが…』

ここに生きる！わがタウンペーパーをおわります。

6月10日オープン！
グランド食堂
てるかつ
ウエイトレス募集　月給4万5千円
メーゾン観光チエーン　小竹勝男
北見市4条西4丁目　T④8854

クラブ　メーゾン・マヤ
お座敷食堂　照勝
ホルモンの店　千昌園本店
おでんの店　ラ

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り　T 二五一二

庭石は道東随一の当会社へご用命下さい
有限会社　大浦建設
造園　土木　造林　造材　請負
足寄町芽登　T 一一

大自然のなかの人工美
―いで湯のふるさと―
観光と保養の　芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

家具　建材　アルミサッシ
既製家具から注文建具
住宅産業に奉仕する！
有限会社　桜井家具建具店
足寄町北五区　T 二三六二　工場西五区

期間宣伝出売
新製品割引
刈払機
従来、当社は舶来品初め国産有銘品を取扱つて参りましたが、先般宣伝の共立新製品と共に今般大手製産富士製品大量誓約に付き、宣伝期間中大割引、この機会に御用命賜りますように御願い申し上げます。
本銘ガスデン刈払機
特長　軽量六、五キロ全装備
他機種より故障少なく
低価格
FB六ー一二R型一、七馬力
小売価格四五、〇〇〇
割引値　三八、〇〇〇
刈払機　各種チエンソー　電動工具
有限会社　鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　T 2307